

八ッ場ダム住民訴訟通信-103

2014年11月15日発行

水道料金問題に真剣に取り組む候補はだれか アンケートで洗い出します。

12月14日に予定される茨城県議選の候補予定者に対し、茨城県の水問題を考える市民連絡会は以下のようにアンケートを実施しました。既報のように八ッ場ダム、霞ヶ浦導水が完成しますと、これまで隠されてきた「責任引取水」が実施されます。そうなれば高い水道料金はさらに跳ね上がります。現在の県議会でストップをかける議員はわずか3人。このままでは、今を生きる私たちはもとより、次世代に大変な負担を強いることになります。

アンケート結果は選挙前にお知らせします。厳しくふり分けしてください。

茨城県議選候補者

茨城の水源開発問題アンケート

茨城県は国の進める水源開発、八ッ場ダム、霞ヶ浦導水、湯西川ダム、思川開発に参加しています。これらの治水効果は、国は年間4820億円もあるとしています。利根川と江戸川の本川に60年以上洪水による破堤はゼロ。被害額もゼロ。まったくの虚構といえます。霞ヶ浦導水のCOD削減効果は1900億円もかけながら、10年平均の8.1mg/Lに対して7.3mg/L。誤差の内ではしかありません。そこで、県民にとって水道料金など直接影響を及ぼす利水についてお尋ねします。以下をご精読いただき、下記の質問にお答えいただきたくお願いします。

ご質問

A:2012年現在、茨城県の水道用水、工業用水の実績は次のようになっています。

■2012年度水道用水実績(単位:万トン/日 保有水源に湯西川ダム含む)

保有水源	1日最大給水量	給水人口	1人1日最大給水量	余剰水
169.8	98.9	273万人	3620	70.9

■2012年度県営工業用水道実績(単位:万トン/日)

保有水源	契約水量	1日最大配水量	契約余剰水	配水率	余剰水
149.5	109.1	70.1	39.0	64.2%	79.4

この傾向は10数年続き、ここ数年は明らかに減少傾向を見せ、人口減少の中で増え続けた給水人口もついに減少に転じました。都市用水(水道用水+工業用水)の余剰は約150万トン。295万人県民は688万人分もの水源を保有しています

B:本年8月、国は霞ヶ浦導水の継続を決めました。八ッ場ダムは本年中にも本体工事に入る予定です。両者の開発水量の合計は約55万トン。完成予定の2020年の県民人口は285万人。給水率を2012年の96.2%、1人1日最大給水量を同様に3620としますと…

■2020年度水道用水予測(単位:万トン/日)

保有水源	1日最大給水量	給水人口	1人1日最大給水量	余剰水
224.8	89.4	247万人	3620	135.4

工業用水は変わらぬものとし、2020年度の285万人県民は840万人もの水源を抱え、単純計算で県民1人あたり3人分もの水道料金を負担することになります。水道料金

に転嫁できなかつた場合は、水道会計は間違いなく破たんするでしょう。

C: 昨年 10 月、橋本知事は現行の「いばらき水のマスタープラン」の改定はしないと声明しました。現行のマスタープランと 2020 年予測を次に示します。

■現行マスタープランと実績から見た 2020 年水需要予測

計画年度	達成年度	人口予測	給水人口	水道普及率	1 日最大給水量	1 人 1 日最大給量
2007 年案	2020 年	297 万人	297 万人	100%	133.8 万トン	450.00
2020 年予測	2020 年	285 万人	247 万人	96.2%	89.4 万トン	362.00

平成 24 年度「茨城県長期基本計画」は、2020 年人口を 285 万人としています。マスタープランの同年人口予測は 297 万人。この段階で県自身が破たんを認めたといえます。さらに、水道の実績から見る 2020 年予測はご覧の通りです。「改定はしない」という不作為はすべて次世代に負荷をかけると声明したことに他なりません。

D: 現在、県企業局と水道事業者(市町村、広域企業団)との水道用水供給契約は「八ッ場ダム、霞ヶ浦導水などが完成するまで」という条件付きで契約水量が定められています。それでもなお、鹿行・県南・県西・県中央の事業者は年間 30 億円もの使わない水の分まで過払いしています。霞ヶ浦導水、八ッ場ダムが完成する 2020 年には本来の契約「責任引取水」が次のように実施されます。※県北は自前の保有水源で賄えるため企業局からの供給は受けていません。※県西は古河市と五霞町が独自で思川開発に参加。完成の暁には 5.8 万トン/日がプラスされ、他の地域と同様の状況になるでしょう。

■契約水量と責任引取水比較(2010 年度 単位万トン/日)

	鹿行	県南	県西	県中央	合計
契約水量	84,000	272,775	80,000	55,971	492,746
責任引取水	108,000	306,075	80,000	240,000	734,075
※思川開発			138,000		792,075
倍率	129%	112%	※173%	429%	149% ※161%

どの地域も現状の過大な契約水量の上に、さらに膨大な水量を引取ることになります。ことに県中央は事業者によっては最低でも 2 倍、最大は 7 倍もの水量を引取ることになります。これらは、すべてを水道料金に転嫁できなくても、県北を含めた県民負担になります。

ご回答(〇記しをお付け下さい)

1: 私たちは、高い水道料金の元凶は無駄な水源開発にあると考えています。八ッ場ダム、霞ヶ浦導水、思川開発は中止し、湯西川ダムは運用停止と考えますが、いかがですか。

そう思う そう思わない その他 _____

2: これまで橋本知事は上記のような水行政を行い、県議会はそれを承認してきました。これ等の判断は妥当だと思いますか。

妥当だ 妥当ではない その他 _____

3: ご意見がございましたらお書き下さい。

八ッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表:濱田篤信 船津寛 柏村忠志

事務局: 神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯: 090-4527-7768